

平成 27 年度第 3 回 (一社) 日本生物物理学会理事会議事録

日時 : 2015 年 12 月 12 日 (土) 13:00~17:00

場所 : 大阪大学産業科学研究所・永井研究室、東京大学分子細胞生物学研究
所本館 206 号室ほか (TV 会議)

出席者 : 理事総数 18 名 出席理事 16 名

代表理事 (会長) 中村 春木

理事 (副会長) 永井 健治

理事 石島 秋彦

理事 大上 雅史

理事 佐甲 靖志

理事 寺沢 宏明

理事 根岸 瑠美

理事 古谷 祐詞

理事 (副会長) 高橋 聡

理事 新井 宗仁

理事 内橋 貴之

理事 小松崎 民樹

理事 佐藤 竜馬

理事 中井 孝尚

理事 広瀬 恵子

理事 光武 亜代理

監事総数 2 名 出席監事 1 名

監事 有坂 文雄

オブザーバー :

邦文誌生物物理編集委員長 原田 慶恵

欧文誌編集委員長 石渡 信一

ホームページ編集委員長 北尾 彰朗

平成 28 年度年会実行委員長 豊島 陽子

平成 29 年度年会実行委員長 山縣 ゆり子

陪席者 :

京都事務局 向井 牧子

議長 : 代表理事 (会長) 中村 春木

議事録作成者 : 理事 佐藤 竜馬

理事 大上 雅史

報告事項および審議事項

報告事項：

1. 平成 27 年度年会報告（内橋）：報 1
 2. 平成 28 年度年会準備報告（豊島）：報 2
 3. 平成 29 年度年会準備報告（山縣）：報 3
 4. 出版委員会報告（永井）：報 4
 5. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高橋）：報 5
 6. 男女共同参画学協会連絡員会報告（高橋）：報 6
 7. IUPAB・ABA 関連報告（野地・中村）：報 7
 8. 生物科学学会連合連絡会報告（高橋）：報 8
 9. 科研費申請報告（永井）：報 9
 10. 科研費活動報告（石渡）：報 10
 11. 会長室の移動について（中村）：報 11
 12. 地区報告 北海道（小松崎）：資料なし
- その他. 木下一彦先生“お別れ講演会”について

審議事項：

1. 平成 28・29 年度会誌編集委員の承認（永井）：議 1
2. 平成 28 年度分野別専門委員の承認（永井）：議 2
3. 平成 28 年度事業計画（案）（永井）：議 3
4. 平成 28 年度予算（案）（佐甲・寺沢）：議 4
5. TV 会議システムの購入（中村）：資料なし
6. 神瀬氏の雇用継続について（中村）：資料なし
7. 中西印刷庶務業務見積について（中村）：議 7
8. 科研費の審査に係る系・分野・分科・細目表について（豊島）：資料なし
9. 年会における発表区分「光生物－光遺伝学・光制御（仮称）」の新設について（古谷）：議 9
10. 年会における国際交流促進について（中村）：議 10
11. 年会のシンポジウム講演動画公開について（中村）：議 11
12. 平成 28 年度総会シンポジウムについて（中村）：資料なし
13. 男女共同参画若手支援関連議題（高橋）：議 13
 - a) 「学生優秀発表賞」および「学生最優秀発表賞」の新設について
 - b) 「若手招待講演者」の改称について

- c) 若手奨励賞の HP 情報の修正について
- 14. 特許の記載について（古谷・光武）：議 14
- 15. 名誉会員（斎藤信彦先生）逝去に伴う通知（中村）：議 15

議事の経過の要領およびその結果：

理事会の審議に先立ち、会長より、定足数を満たしており、定款第六章第三十二条の規定により理事会が成立することが報告された。会長が議長に就き、開会を宣言し審議に入った。

報告事項：

0. TV 会議について（中村）

毎年開催する年会時の理事会と社員総会の年二回は必ず全理事が一箇所に集まり執り行うが、それ以外を TV 会議とする。

これにより年間 100 万円以上の経費予算を削減可能となる見積もりであると報告があった。

1. 平成 27 年度年会報告（内橋）：報 1

安藤年会実行委員長が本日欠席のため代わって内橋氏から平成 27 年度年会について報告があった。年会会期：2015 年 9 月 13 日（日）～15（火）、場所：金沢大学 自然科学本館、参加者総数：1,589 名（前年比 50 名増）、演題登録状況：一般演題 902 件（口頭：212 件、ポスター：690 件）、シンポジウム：243 件（若手奨励賞招待講演含む）であった。アプリのアクセス数が前年度比+60,000 件。キャリア支援説明会において応募企業：8 社、年会初日と二日目に合同説明会を実施。午後に個別説明会を実施した。個別説明会には 20 名程度が参加。

2. 平成 28 年度年会準備状況（豊島）：報 2

豊島年会実行委員長より平成 28 年度つくば年会準備状況について報告があった。日時：2016 年 11 月 25 日（金）～11 月 27 日（日）。会場：つくば国際会議場。実行委員だけではカバーできない分野もあるため、年会プログラムを組む際にはお手伝いいただきたい。つくばのほうで学生アルバイトを多数募るため、その世話人にも加わっていたく予定である（11 月 30 日現在）。新井氏に学会本部と年会実行委員の連絡係をお願いしている。市民講演会について：2016 年 11 月 5 日（土）東京大学 駒場キャンパスで開催予定。講演者：金子邦彦先生（東大）と野地博行先生（東大）を予定。タイトル（仮）：「生き物らしさとは何か」

3. 平成 29 年度年会準備状況（山縣）：資料なし

山縣年会実行委員長より平成 29 年度熊本年会準備状況の報告があった。年会会期：検討中、場所：熊本大学黒髪地区、懇親会：日程検討中、場所：ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ。市民講演会：熊本市国際交流会館ホール（予定）、日程検討中

4. 出版委員会報告（石渡）：報 4

石渡欧文誌編集委員長より欧文誌の現状報告があった。欧文誌への投稿状況は年間 30 編ほどになる見込み。Impact Factor (IF) を取得するためにトムソン・ロイターへ申請したが雑誌名を変更したため、取得が数年先に延びた。IF の取得には引用数、被引用数を増やすことが必要である。以前の欧文誌「Biophysics」を引用しても無効。編集委員による特集予定などの清書について、タンパク質リガンド相互作用特集号に 4、5 件の論文投稿があり、一件は国外からの投稿（投稿料・掲載料免除の例）。新たな取り組みとして、Significance という短い文章をアブストラクトの前につける。現在掲載されている Significance と委員が手を加えた Significance を対比して掲載予定。Biophysics and Physicobiology のクリアファイルを作成した。論文によっては英文の不備があるため、科研費から捻出予定。5 年間で科研費を応募（報告 9 で詳しく報告する）。神取委員が来年度邦文誌「生物物理」編集長に就任されるにあたり、BPPB 誌編集委員は退任いただく。邦文誌の次期副編集委員長の選考：神取次期編集委員長より副編集委員長に秋山修志先生（分子研）を推薦するという提案があり承認された。欧文誌編集委員長の任期が IF 取得までとなっていたが、IF 取得の期限が定まらないため、PubMed への掲載の採否が確定するまでに改定。第 5 回 Biophysics and Physicobiology 論文賞の公募において、Biophysics and Physicobiology (または BIOPHYSICS) に変更ホームページの分野別専門委員会のキーワードについて、北尾ホームページ編集委員会委員長からホームページ編集委員会報告・議題について報告があった。分野別専門員がキーワードに関する紹介記事を書き、23 件を追加した。今年までで全体の 3 分の 2 のキーワードに対して記事を掲載した。和沢鉄一委員の任期満了に伴い、宮田真人氏（大阪市立大学）を推薦し、承認された。HP に動画を集めたページを掲載予定。J-Stage 対象コンテンツの拡大について従来の J-Stage では査読付き論文誌のみを扱っていたが、現在は査読なしの論文誌も対象になっている。生物物理学会年会の要旨集などを載せることが可能になる。その他、支部会の予稿集なども載せることが可能である。

5. 科研費申請報告（永井）：報 9

永井副会長より科研費申請の報告があった。欧文誌の誌名は「**Biophysics and Physicobiology**」と名称を変更した。今年は単年度採択であったが、今回の申請では5年間で採択を申請した。編集・査読管理費が必要になるため投稿数が増えるにつれて必要経費も増える見込みである。

6. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高橋）：**報 5**

高橋副会長より男女共同参画・若手支援委員会の報告があった。若手奨励賞について、応募総数：39件。HPの情報の英語化を行ったことで、外国人の応募があったと考えられる。一方で、女性の応募が極端に少なかった。男女若手シンポジウムについて、開催概要：タイトル「ポストク問題と言わないで！-任期付き雇用問題の解決を目指して-」日時：2015年9月14日（月）11:30~12:20、会場：南福利食堂フレポ奥

7. 男女共同参画協会連絡会報告（高橋）：**報 6**

高橋副会長より男女共同参画協会連絡会の報告があった男女共同参画学協会連絡会/公開シンポジウムについて、生物物理学会以外の学会では純粋に男女共同参画が問題視されており、若手向けのポストがないというのはあまり問題視されていなかった。来年度は日本生化学会が幹事として執り行う。

8. IUPAB・ABA 関連報告（中村）：**報 7**

中村会長より IUPAB・ABA 関連について報告があった。オーストラリア生物物理学会参加報告について、高橋 聡 氏がオーストラリア生物物理学会に参加。台湾生物物理学会との交流について中村会長宛に台湾で開催される会議の招待メールが届いた。開催日：2016年5月20日、中村会長が参加。

9. 会長室の移動について（中村）：**報 11**

中村会長より会長室の移動について報告があった。会長室の移動について、生物物理学会で所有しているパソコンを移動、大阪大学の学内の移動のため、電話番号は同じ、メールは大阪大学 蛋白研のアドレスに変更。学会業務については京都事務局（中西印刷）に委託しているため、科研費以外は中西印刷に連絡していただきたい。名称の統一のため中西印刷を京都事務局と呼び、中村会長、神瀬 氏を会長室と呼ぶことにする。

10. 地区報告 北海道（小松崎）：**資料なし**

小松崎 氏より北海道支部の活動報告があった。開催日：平成 27 年度日本生物物理学会

北海道支部会を 2016 年 3 月 14 日に開催予定。場所：北海道大学 薬学研究科。一部のセッションを日本生化学会と合同で行う予定。

11. 生物科学学会連合連絡会報告（佐甲）：報 8

高橋副会長に代わり佐甲 氏より生物科学学会連合連絡会について報告があった。テニユアトラックの制度設計について現行の制度が必ずしも良いわけではないため今後も議論が必要である。

その他、木下一彦先生“お別れ講演会”について

アメリカ生物物理学会が Kazuhiko Kinoshita Memorial Fund を設立している。毎年 2,000 ドルの賞金と盾を進呈する予定。そのために 50,000 ドルの寄付が必要であり、現在までに 30,000 ドルの寄付が集まっている。

審議事項：

1. 平成 28, 29 年度会誌編集委員の承認（永井）：議 1

永井副会長から平成 28,29 年度会誌編集委員について説明があった。出版委員会からの提案を受け、6 名を次期会誌編集委員に推薦することが承認された。

2. 平成 28 年度分野別専門委員の承認（永井）：議 2

永井副会長から平成 28 年度分野別専門委員について説明があった。重複している方についての取り扱いとして、重複している先生が数名いるが、二つまでの重複は構わないが三つ以上の場合は要検討。各分野における原稿について、分野別専門委員の方であればどなたが書いていただいても構わない。非会員の方について、非会員の方が分野別専門委員会に選出された場合は、会員になっていただくように打診する。原則、非会員は分野別専門委員会には入れない。原稿の依頼について分野別専門委員会の方に書いていただく原稿は日本語か英語という点で、趣旨としては一般の方向けのためなるべく日本語で書いていただくことが望ましい。

3. 平成 28 年度事業計画（永井）：議 3

永井副会長より日本生物物理学会 平成 28 年度事業計画について報告があった。学術誌・学術図書の発行について、Applications of Biophysics の公開については野地 氏と高田 氏が担当。学術・科学技術に関する研究発表について、熊本年会の年会会期は検

討中。人材育成は特になし。研究業績と技術的実践の奨励と表彰について、学生優秀発表賞の項目を追加。関連学術団体との連携及び協力について、男女共同参画学協会連絡会への参加を追加。国際的な研究協力の推進について、年会における国際交流促進（オーストラリア、台湾、中国）を追加普及啓蒙活動について、市民講演会開催：2016年11月5日（土）、会場：東京大学 駒場キャンパス。理事会・総会・委員会等について、理事会は5回（2015年：6月、9月、12月、2月、4月、2016年：6月、9月、11月、2月、4月）開催、2016年度社員総会は11月開催。

4. 平成28年度予算（案）（佐甲、寺沢）：議4

佐甲氏より平成28年度予算案について報告があった。収入：受取会費について、昨年度に比べ1,000万円変わっているが見かけ上であり、これまではその年度のみで会費であったが、法人化によりその年の収入を記載することになったため前払いした方などの会費が含まれない。平成28年度年会の予算案について、豊島先生から2,400万円程度との見積。普及啓蒙事業について、欧文誌の掲載料が変更されたため、83万円から120万円になっている。科学研究費補助について、現在申請中のため予算に含めていない。支出：学術研究事業について、平成28年度年会にかかる費用が2,400万円程度。普及啓蒙事業について、支出が823万円、前年度から変わっている部分は欧文誌の査読の費用が変わっている。その他の事業について、100万円程度変わっているが、アジア・オセアニア地区編集委員の招聘にかかる費用。管理費について、垣内氏が退職されたことにより前年度に比べ大きく変わっている。業務委託費について、垣内氏の退職に伴い中西印刷に業務委託したことにより300万円程度変更があった。収入との差額について、126万円ほどの黒字。

5. TV会議システムの購入（中村）：資料なし

中村会長よりTV会議システム購入について説明があった。一般社団法人として自前のTV会議システムをもつ必要がある。今後、金額として50万円以下の機材を購入予定。

6. 神瀬氏の雇用継続について（中村）：資料なし

中村会長より神瀬氏の雇用継続について説明があった。科研費の採択によらず神瀬氏を雇用する。雇用に際して、予算案にあらかじめ繰り込んでおく。

7. 中西印刷庶務業務見積について（中村）：議7

中村会長から中西印刷庶務業務委託について説明があった。2015年10月1日から2016

年4月末までの雇用に際して、203万円。来年度一年分の費用：2,980,800円。

8. 科研費の審査に係る系・分野・分科・細目表について（豊島）：**資料なし**

豊島氏より科研費の審査に係る系・分野・分科・細目表について説明があった。審査委員について、生物物理学の分野の審査委員は、過去には学会推薦で選出していたが現在は学術システム研究センターから審査委員を推薦することになっている。細目表について、全体で320ほどあり、細目の見直しが5年に一度行われている。平成30年度の科研費申請の段階から細目を見直し、新たな体制で臨む予定になっている。基盤研究A以上は細目をまとめた区分で審査する体制で進む予定である（全体で3項目：大、中、小項目）。全体の細目を320から160まで減らす予定。分子生物学から生物物理学、細胞生物学から遺伝染色体動体、進化生物学から人類学の3つの区分に分ける予定。

9. 年会発表における発表区分「光生物－光遺伝学・光制御（仮称）」の新設について（古谷）：**議9**

古谷氏より年会発表区分の新設について説明があった。光遺伝学関連の発表をしている方々から、関係の薄い分野の発表区分を割当てられてしまい適切な議論ができにくいという意見をいただいた。豊島年会実行委員長を主体としてつくば年会から光生物に光遺伝学・光制御の発表区分を新設する予定で承認された。

10. 年会における国際交流促進について（中村）：**議10**

中村会長より国際交流促進について説明があった。中国生物物理学会との連携について、日本と中国とのより親密な交流を進めていこう、ということで話を進めている。具体的には、日本と中国で毎年シンポジウムを設けて相互に講演者を派遣する予定。つくば年会における対応について、シンポジウムの公募は2016年3月4日までなので、新たにシンポジウムを設けることは可能である。オーストラリアとの連携も同時に進めていく予定である。

11. 年会のシンポジウム講演動画公開について（中村）：**議11**

中村会長からシンポジウム講演動画の公開について説明があった。日本語での講演は生物物理学会の方針に合致していないため、公開は認められない。公開自体は方向性として問題ないため、英語で講演したものに対してなら検討可（事前に許可が必要）。本件については動画の公開を承認しないこととなった。

12. 平成 28 年度総会シンポジウムについて（中村）：**資料なし**

中村会長より平成 28 年度総会シンポジウムについて説明があった。野地 氏と議論し木下一彦先生の追悼講演会などを企画している。

13. 男女共同参画若手支援関連議題（高橋）：**議 13**

高橋副会長より男女共同参画若手支援関連について説明があった。学生優秀発表賞および学生最優秀発表賞の新設において、運営について今一度議論を行ったうえで実行していただくということで概ね承認された。若手招待講演証の改称について、若手招待講演証から若手招待講演賞に変更。変更後には、過去の受賞者に連絡する。賞の名称については今一度議論が必要。証から賞の変更については承認された。若手奨励賞の HP について、「また、本会では、学会欧文誌「Biophysics and Physicobiology」への若手からの投稿を推奨しています。論文を「Biophysics and Physicobiology」に主著者あるいは共著者として発表している応募者は、選考において有利に取り扱われます」という文言に「若手奨励賞の受賞者は、原則として受賞後一年以内に Biophysics and Physicobiology 誌に総説あるいは原著論文を執筆すること」を要件の項目として加える。BPPB 誌の編集委員会にフィードバックして議論してもらう。

14. 特許の記載について（古谷・光武）：**議 14**

古谷 氏より特許の取り扱いに関する記載の修正案について説明があった。特許法の平成 23 年改正により、特許長官が指定する学術団体という制度がなくなったため、「特許法第 30 条第一項に基づく指定学術団体」という項目の削除。改正後に改めて記載する。現状は特許庁に公開されている改正に合わせる。証明願書式例のダウンロードを行えるように個人で行う。質問がある場合は学会として対応する。次の社員総会でより細かく話し合う予定である。

15. 名誉会員（齋藤信彦先生）に逝去に伴う通知（中村）：**議 15**

中村会長より齋藤先生の逝去に伴う通知について説明があった。情報が事務室に入り次第、適宜お知らせしていく。

連絡事項：

1. 次回理事会日程について（中村）

平成 27 年度第 4 回 一般社団法人日本生物物理学会 理事会

日時：2016年2月20日（土）12:30～

場所：未定

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 17:00 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 28 年 1 月 14 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 27 年度第 3 回理事会

代表理事 中村春木（印）

監事 有坂文雄（印）